



地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院 広報誌

北部医療センターだより

2024年冬号

HIROSHIMA CITY NORTH MEDICAL CENTER ASA CITIZENS HOSPITAL

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院

〒731-0293 広島市安佐北区亀山南1-2-1 Tel 082-815-5211(代表) <https://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp/>

ご自由にお持ち帰りください

HPはこちら



地域の中で看護部が目指すもの

広島市立北部医療センター安佐市民病院は、地域に根差した基幹病院として、救急医療、がん診療連携拠点病院として高度急性期医療を提供し、さらに地域の医療・在宅療養を支援する役割があります。また、従来の病院完結型から「医療」と「ケア」と「生活」が一体化した地域完結型の体制へ転換が求められています。

看護部では、「地域と共に」をキーワードに看護の質の向上、連携の強化を図り、医療が切れ目なく地域に引き継がれていくために在宅・施設等のつながりを強化していくことが重要と考えています。高度急性期医療では医療ニーズの高い看護実践能力が必要ですが、緊急・重症な状態から回復することへの支援と「生活の質」の改善の視点を持って看護を行うことが大切です。

地域との連携を図り、病気になっても住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう、患者さんにかかわる医師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、栄養士、

医療ソーシャルワーカーなどすべての職種とのつながりを重視し、各領域での専門性をもった看護師がチーム医療の一員としてかかわっています。一日も早い回復を支援し療養環境を整え、退院後も安心して地域での療養継続ができるように取り組んでいます。

医療提供体制が変化する中で、「医療」と「生活」の両方の視点を持って全体を見通して、患者さんの状態に合わせて適時適切にケアが提供できるよう医療・介護のサービス全体を統合的にマネジメントできる看護実践能力を培い、患者さんの意思決定を支援し、退院後の生活を見据えた入院医療が提供できる看護師を育成していきたいと考えます。さらに、地域で医療介護を支えていくために、人材

交流や地域との連携強化のため特定行為研修や特定看護師の活動も重要と考えます。

看護で大切なことは、看護職が、看護専門職として、患者さんひとり一人の思いやニーズを把握し看護を実践することだと思います。そのためには、知識・技術・態度の習得とともに、その人の生きる力・回復する力を引き出す豊かな感性を磨くことも大切だと思います。患者さんの病気を見る医療の視点だけでなく、生きていく営みである生活の視点をもって人を見ていくチカラが大切だと思います。

2023年から「看護師特定行為研修施設」を開設しています。地域の看護師の方も研修可能な仕組みをつくり、地域との連携を図り、退院後も暮らしの場での療養生活が安全・安心に直結するように、在宅・施設等の方と協働しながら地域医療に貢献できるようにと考えます。

一日も早い回復を支援し療養環境を整え、退院後も安心して地域での療養が継続できるように貢献をすることが、地域の中で看護部が目指すことと考えております。

広島市立北部医療センター安佐市民病院が今後とも発展し続けていくために、職員一同、力を合わせて、努力してまいります。



まつばら あけみ
副院長(事)看護部長 松原 朱美



TAVI(経カテーテル大動脈弁植え込み術)

大動脈弁狭窄症は、加齢に伴い増える心臓の病気で、心臓の出口にある大動脈弁が固くなり、開きにくくなる病気です。大動脈弁が悪くなると、心臓に負担がかかり、最終的に心不全という病気の原因となります。心臓の雑音や息切れがきっかけで見つかることがあります。無症状の患者さんの中にかくれていることも大変多いです。

北部医療センター安佐市民病院では、広島県北部で初めて(県内5施設目)となる「TAVI(タビ：経カテーテル大動脈弁植え込み術)」を導入しました。

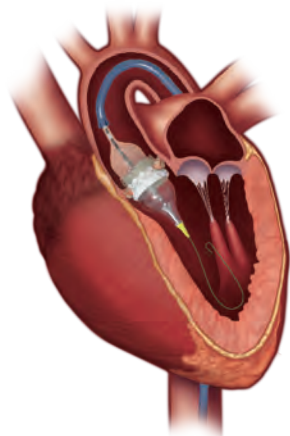
10数年ほど前までは、大動脈弁狭窄症は高齢者にとって「不治の病」と考えられていました。もちろん、開胸手術という方法で治療できるケースもありますが、体力の低下や他の病気を抱えている高齢の患者さんにとっては手術が難しく、ただ経過を見守るしかない状況が多かったのです。

また、この病気が原因で、腰の手術、がんの手術を断念せざるを得ないこともありました。

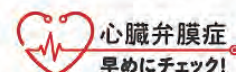
そこで登場したのが「タビ」という治療です。胸を開けることなく、足などの血管からカテーテルを用いて新たな弁を心臓に留置します。多くの場合、術後翌日から食事やリハビリを開始します。外科的治療に比べると手術の負担は軽く、ご高齢の方をはじめとした開胸の危険性が高い患者さんに向いている治療です。

これまで遠方の病院まで通院しなければならなかった患者さんや、治療を断念せざるを得なかった患者さんが、当院で安全に心臓の治療を実施させていただけるようつとめます。

最後に、タビ導入にあたって、院内の多職種が一丸となった「ハートチーム」を結成しました。医療の進歩は著しく、各分野のスペシャリストが一丸となって患者さんを支えていく医療を実践しています。当院のスタッフが伝統的に守ってきた「職種の垣根を越えて患者さんと地域の医療を支える文化」を、これからも進化させていきたいと考えています。



画像提供：エドワーズライフサイエンス合同会社



しんぞうべんまくしょう
心臓弁膜症の情報サイト

<https://www.benmakusho.jp/>

弁膜症サイト



大腸ポリープの見逃しゼロを目指したAI内視鏡システム

大腸がんの罹患率は男性で第2位、女性で第1位と非常に高く、特に60-75歳の年代で急増しています。一方、大腸ポリープ(腺腫)の段階で発見し切除すれば、大腸がんの死亡を53%も減少させるというデータがあります。つまり、大腸がんのリスクが増加する10-20年前にあたる40-50歳代で大腸内視鏡検査を受けてポリープを切除することで、将来の大腸がんを予防できるのです。

大腸がんの予防を目的とした大腸内視鏡検査では、大腸ポリープの見逃しを最小限に抑えることが重要となります。しかし、大腸には死角となる部位が多く、従来の内視鏡検査では1件あ

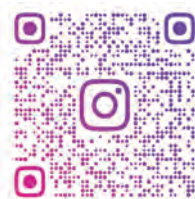
たり約26%の腫瘍性病変が見逃されている

と言われています。そこで当院では、見逃しを減らす最新技術であるAI内視鏡システムを2022年2月に導入しました。このAI内視鏡システムの導入により、従来の検査と比べてポリープを約10%多く発見できるようになりました。見逃しの少ない大腸内視鏡検査を提供し大腸がん減少に貢献していきたいと思っています。



内視鏡内科 部長

しぎた けんじろう
嶋田 賢次郎



広島市立北部医療センター安佐市民病院 内視鏡センター

初期臨床研修医のご紹介

2004年度から新臨床研修医制度が必修化され20年が経ちました。

今年度は新臨床研修医制度21回生となる初期研修医10名が当院に赴任し、広島大学病院からたすきがけ研修で赴任した2年目研修医1名と歯科研修医1名と併せると21名の若者が当院の初期臨床研修医として皆様の診療にあたっております。

皆やる気に満ち溢れており、明るく勉強熱心、仕事熱心です。そんな研修医の存在はわれわれ指導医にとっても良い刺激となっております。高い山を作るためには裾野を広げることが重要です。たった2年間の研修ではありますが、多くの経験をしてもらいたいと願っています。

そして、初期研修医の中には当院での研修終了後に他の病院に出向し、将来さらに成長して安佐市民病院に帰ってくる医師もいます。まさに広島東洋カープやサンフレッチェ広島のように、生え抜きが海外で経験を積んで元のチームに帰ってくるようなもので、それは戦力としてはもちろん、知見を広げたり、後輩の育成にも貢献します。人材育成には長い時間が必要となります。未来の安佐地区、日本を支える医療者を育てるべく、地域の皆様の温かい見守りをいただけると幸いです。



初期臨床研修プログラム
責任者
あおやま たいき
青山 大輝



いではた ひろみ
井手畑 大海

「日々精進いたします。」

広島出身の井手畑大海と申します。安佐市民病院で医師として最初の二年間を過ごさせていただくことができ、大変光栄です。患者様方のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。



なかもと しょうへい
中本 翔平

「よろしくおねがいします!」

広島大学出身の中本翔平です。大学ではバレーボールをしていました。生まれ育った広島に貢献できるよう、患者様に寄り添った医療を提供できる医師を目指して、日々研鑽を積んでまいります。



いりえ ひでゆき
入江 英之

「ご指導のほどよろしくお願いいたします。」

今年度より安佐市民病院で研修医として働かせていただいております入江英之と申します。日々成長を目指して一生懸命頑張ります。至らない点あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。



はしば たいち
橋羽 太一

「努力してまいります。」

研修医一年目の橋羽太一です。旧・当院で開催された高校生向けの医師体験セミナーに参加したことが、私が医師を志したきっかけです。その当院で働けることを誇りに思っており、地域の皆様のお力になれるよう、日々努力してまいります。



おかだ ゆうき
岡田 悠希

「ご指導よろしくお願いいたします。」

はじめまして。今年度より安佐市民病院で研修をさせていただいております、岡田悠希です。恵まれた環境で研修できることをとてもうれしく思っています。患者さんと医療に誠実に向き合い、これからも日々学び続けます。至らない点もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。



はやし ともひと
林 智仁

「ご指導お願い致します。」

安佐市民病院初期臨床研修医の林智仁です。患者様に寄り添い、安心していただける医師を目指して、日々勉強と努力を重ねています。どうぞよろしくお願いいたします。



くによし りょうた
國吉 遼大

「よろしくお願いいたします!」

初めまして。私は研修医一年目の國吉遼大と申します。医師になってまだ一年目ではありますが、情熱にあふれた上級医の先生方と同期に囲まれ、日々精進しております。皆様のお力に少しでもなれるよう、精いっぱい頑張ります。よろしくお願いいたします。



まつだ しょうへい
松田 匠平

「日々頑張ります。」

こんにちは。一年目研修医の松田匠平と申します。医師としての第一歩を踏み出し、日々学びと成長を続けています。患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼される医師を目指して頑張ります。



くりはらあおい
栗原 葵

「よろしくお願いいたします」

ご縁があり二年間安佐市民病院で初期研修をすることになりました、栗原葵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。山と川に囲まれた自然豊かなこの場所で、日々ご指導いただきながら精進してまいります。



みしま そら
三島 空

「よろしくお願いいたします。」

研修医一年目の三島空と申します。医師になって半年が経ちますが、刺激的で学びの多い日々を過ごすことができています。より良い医療に貢献できるよう、今後も努力を惜しまず、謙虚に取り組んで参ります。

特定看護師について

看護師の中でも“特定看護師”というものを皆様はお聞きになったことがあるでしょうか。特定看護師とは、2015年に厚生労働省が開始した「特定行為に係わる看護師の研修」を修了した看護師のことをいいます。特定行為とは、これまで医師にしかできなかった特定の医療行為のことをいい、医師の作成した手順書により実施することができます。この特定行為を活かし、従来よりも患者様の状態に応じたタイムリーできめ細やかな、質の高い看護を提供することができます。当院には現在10名の特定看護師が在籍しています。

これまで当院看護師は、特定行為研修を他施設で受講していましたが、2022年度に当院は特定行為研修施設として認可され、2023年度より特定行為研修が開講されました。私は当院での特定行為研修第1期生として、特定行為研修を修了し、計15行為の特定行為を実施することができるようになりました。



うになりました。

私は入職時にICU(集中治療室)に配属され、重症な患者様の日々刻々と変わりゆく病態に直面してきました。急な病気や大きな怪我で入院される場合、患者様やご家族は不安、痛みなどの大きなストレスを感じることもと思います。特定行為はそういった患者様やご家族のストレスにタイムリーに応えることができる一つの手段であると思い、特定行為研修を受講しようと思いました。

特定行為は集中治療領域だけでなく、一般病棟や外来、地域での訪問看護など、これから様々な場面での活躍が期待される行為です。ただ社会だけでなく、医療現場においてもまだ特定行為の認知度は低く、特定看護師の数も決して多くはありません。今はまだ活躍の場が限られていますが、今後少しずつ皆様と関わる機会も増えてくるかと思っています。皆様にとってのWell-being(より善い状態)に貢献できるよう、これからも尽力して参りますのでよろしくお願いいたします。



特定看護師
もりはら だいすけ
森原 大輔

新コーナー

北部認知症疾患医療センターだより Vol.1

「北部医療センターだより」夏号でもご紹介しましたが、当院では今年7月からアルツハイマー病の新薬レカネマブによる治療を開始し、既に20名を超える方が治療を受けておられます。アルツハイマー病は脳にアミロイドβ蛋白が蓄積して起こる病気ですが、アミロイドβ蛋白の蓄積を調



べる脳の検査がアミロイドPET検査で、アミロイドβ蛋白を脳から取り除く薬がレカネマブです。この検査と治療は当院の1階で受けることができます。レカネマブによる治療を受けておられる患者さんは全員、いつも診ていただいているかかりつけ医(一般の内科や外科の開業医)からの紹介で当科に受診されています。レカネマブによる治療を希望される方や、ご自身やご家族のものの忘れが気になる方は迷わずに、かかりつけ医に相談しましょう。



脳神経内科 主任部長
広島市北部認知症疾患
医療センターセンター長
やました ひろし
山下 拓史



専用電話

082-815-5299

相談日

月曜日～金曜日(祝日・8月6日・年末年始を除く)

相談時間

午前9時～12時 午後1時～4時30分

(午後は面談のためお待たせすることがあります)

PICK UP!

公式YouTubeチャンネル

最新の技術紹介やWEB講演会などの医療従事者向けの動画だけでなく、施設紹介や検査の流れなど当院を受診される患者様や受診を検討されている患者さんの役に立つような動画を発信しています。



PICK UP!

公式Instagram

皆さまに親しまれる病院を目指し、院内や院内スタッフの活動、季節の風景、イベントの様子など、当院の特徴や魅力などを随時発信しています。あたたかい「フォロー」&「いいね」お待ちしております。

